

高校日本史プリント (過去問類似)

近世 No.5

名前

得点

/10

問1 江戸時代後期の化政文化期には、庶民の間で旅への関心が高まり、街道を舞台にした文学作品が人気を博した。弥次郎兵衛と喜多八の二人が東海道を旅する様子をコミカルに描いた『東海道中膝栗毛』を著した人物は誰か。 (2004年 全国公立入試 類似)

1. 式亭三馬 2. 柳亭種彦 3. 為永春水 4. 十返舎一九

問2 寛政の改革において、幕府直轄の学問所で朱子学以外の学問（陽明学や古学など）を講じることを禁止し、旗本や御家人の子弟に朱子学の修得を義務づけた統制策を何というか。 (2004年 全国公立入試 類似)

1. 蚕社の獄 2. 学問吟味 3. 異学の禁 4. 禁書の令

問3 江戸時代初期の寛永期には、茶の湯の流行を背景に、簡素で洗練された美しさを持つ数寄屋造の建築様式が発達した。八条宮家の別邸として造営され、庭園と建物が調和したこの様式の代表例とされる建築物は何か。 (2004年 全国公立入試 類似)

1. 桂離宮 2. 二条城 3. 萬福寺 4. 姫路城

問4 関ヶ原の戦い後も大坂城で勢力を保っていた豊臣秀頼が、京都の寺院の大仏殿を再建した際、その鐘に鑄込まれた「国家安康」「君臣豊楽」の銘文に対し、徳川家康が「家康の文字を分断し、豊臣を君主として楽しむものだ」と言いがかりをつけた。豊臣氏滅亡の契機となったこの事件を何というか。 (2005年 全国公立入試 類似)

1. 方広寺鐘銘問題 2. 元禄赤穂事件 3. 宇都宮釣天井事件 4. 絵島生島事件

問5 江戸時代中期の儒学者で、荻生徂徠の門人であり、武士が農業だけに頼るのではなく、藩が特産品の専売などの商業活動を通じて利益を上げ、財政を再建すべきであるとする重商主義的な経世論を著書『経済録』などで展開した人物は誰か。 (2025年 全国公立入試 類似)

1. 荻生徂徠 2. 海保青陵 3. 太宰春台 4. 熊沢蕃山

問6 江戸時代中期、長崎での貿易決済に伴う金銀の海外流出を抑制するため、1715年に新井白石の建議によって制定され、清船やオランダ船の来航隻数や貿易額を制限した法令は何か。 (2004年 全国公立入試 類似)

1. 異国船打払令 2. 海舶互市新例 3. 寛永鎖国令 4. 糸割符制度

問7 江戸時代、房総半島の九十九里浜において地引網を用いて大量に捕獲され、乾燥などの加工を施されたのち、畿内をはじめとする先進的な農業地域へ綿作などの金肥（肥料）として出荷された魚類は何か。 (2008年 全国公立入試 類似)

1. 鰯 2. 鯨 3. 鯨 4. 鯨

問8 江戸時代後期、街道や宿場が整備され、庶民の間で社寺参詣や観光を目的とした旅が流行した。こうした社会背景のもと、十返舎一九が著し、弥次郎兵衛と喜多八のコミカルな旅の様子を描いて大ヒットした滑稽本の代表作は何か。 (2004年 全国公立入試 類似)

1. 南総里見八犬伝 2. 東海道四谷怪談 3. 東海道中膝栗毛 4. 与話情浮名横櫛

問9 江戸時代の農民の家族や生活に関して述べた次の文章中の空欄 [] に入る、夫から妻に渡された離縁状の俗称として最も適当な語句を答えよ。幕府や藩は農民の分家による田畑の細分化を防ぐため、分割相続を制限して単独相続を基本とした。こうした家制度が維持される一方で、庶民の間では離婚や再婚も行われており、離婚の際には夫から妻へ [] と呼ばれる書状が交付された。この書状は、妻が別の男性と再婚することを許可する法的な効力を持っていた。 (2006年 全国公立入試 類似)

1. 縁切寺 2. 五人組 3. 寺請状 4. 三行半

問10 17世紀後半に国内の銀の産出量が減少し、幕府が銀の輸出を制限するようになると、長崎貿易における決済手段として銀に代わり主要な輸出品となった、日本国内で豊富に産出された鉱物は何か。 (2008年 全国公立入試 類似)

1. 銅 2. 金 3. 茶 4. 銀

答え合わせ・解説 No.5

問1	答え 4 十返舎一九	江戸時代後期の化政文化期には、庶民の旅への関心の高まりを背景に、ユーモラスな旅の様子を描いた滑稽本が流行した。その代表作である『東海道中膝栗毛』を著したのは十返舎一九である。
問2	答え 3 異学の禁	寛政の改革を推進した老中松平定信は、幕府の正学である朱子学の振興を図るため、聖堂学問所（のちの昌平坂学問所）において朱子学以外の講義や採用を禁止する「異学の禁」を出した。これにより、旗本・御家人子弟の思想統一と人材育成が図られた。
問3	答え 1 桂離宮	寛永期には、茶の湯の流行を反映して、書院造に草庵風の茶室の意匠を取り入れた数寄屋造と呼ばれる建築様式が登場した。八条宮家の別邸として京都に造営された桂離宮は、簡素ながらも洗練された美しさを持ち、数寄屋造の代表的な遺構として知られる。一方、幕府の権威を示す日光東照宮などは、絢爛豪華な権現造で建てられた。
問4	答え 1 方広寺鐘銘問題	関ヶ原の戦い後も大坂城に抛り強い影響力を残していた豊臣氏に対し、徳川家康は政権の安定化を図るためその排除を狙っていた。豊臣秀頼が再建した京都の方広寺の鐘に刻まれた「国家安康」「君臣豊楽」の銘文を、家康の名を呪い豊臣の繁栄を願うものと曲解して言いがかりをつけたこの事件は、豊臣氏滅亡の直接的な引き金となった。
問5	答え 3 太宰春台	荻生徂徠の門人である太宰春台は、武士が商業活動に関与することを肯定し、藩が特産品を専売して利益を得るべきだと主張した。これは、農業を本業とし商業を末業とする従来の抑商的な思想とは異なり、のちの藩政改革における専売制の導入などに理論的根拠を与えた。
問6	答え 2 海舶互市新例	江戸時代、長崎貿易の決済として多量の金銀が海外に流出したため、新井白石の建議により1715年に海舶互市新例（正徳新例）が制定された。これにより、清船やオランダ船の来航隻数や貿易額に制限が加えられ、国内の貴金属流出が抑制された。
問7	答え 1 鰯	江戸時代、農業の発展に伴って購入肥料である金肥の需要が高まった。特に房総半島の九十九里浜では地引網漁が発達し、大量に捕獲された鰯が干鰯やメ粕に加工され、畿内の綿作地帯などに肥料として流通した。
問8	答え 3 東海道中膝栗毛	江戸時代後期（化政文化期）には、交通網の整備や経済の発展に伴い、庶民の間で伊勢参りなどの旅がブームとなった。この背景のもと、十返舎一九が執筆した『東海道中膝栗毛』は、弥次さん・喜多さんの珍道中をコミカルに描き、当時の人々の旅への憧れや関心を刺激して大ベストセラーとなった。
問9	答え 4 三行半	江戸時代の農民の間では、田畑の細分化を防ぐために分割相続が制限され、家督とともに一子に単独相続させることが基本となった。一方で、庶民の婚姻関係においては離婚や再婚が比較的柔軟に行われており、離婚の際には夫から妻へ「三行半」と呼ばれる離縁状（離婚状）が渡された。これは、妻が他家へ再婚することを許可する法的な証明書としての役割を果たしており、これを持たずに再婚することは不義理（密通）として処罰の対象となった。
問10	答え 1 銅	17世紀後半、銀の産出量減少と海外流出への対策として、幕府は銀の輸出を制限した。これに代わる主要な輸出品として、当時日本で増産されていた鋳物が用いられ、長崎貿易の決済手段として重要な役割を果たすようになった。また、これに加えて煎海鼠や干鮑などの俵物も輸出された。